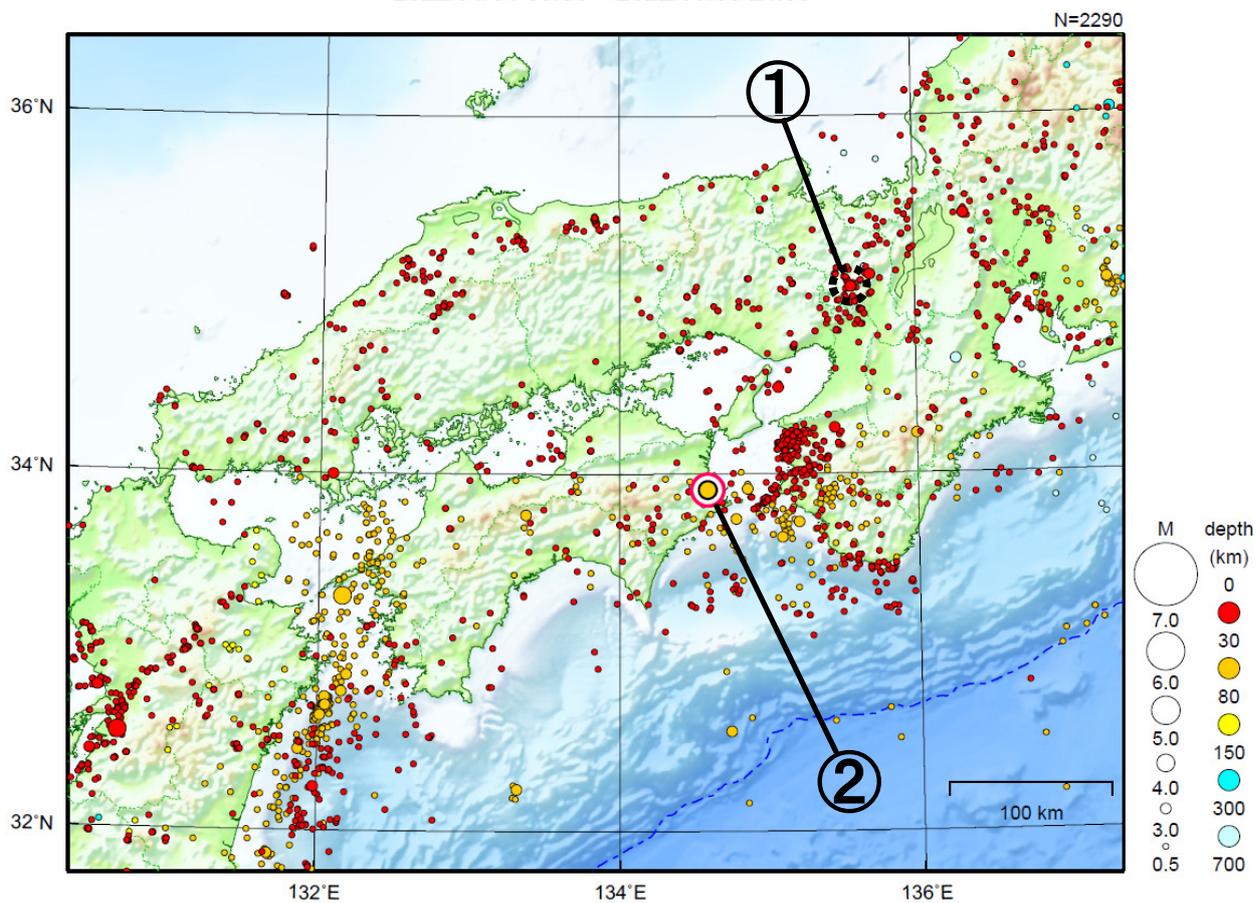


近畿・中国・四国地方

2022/06/01 00:00 ~ 2022/06/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

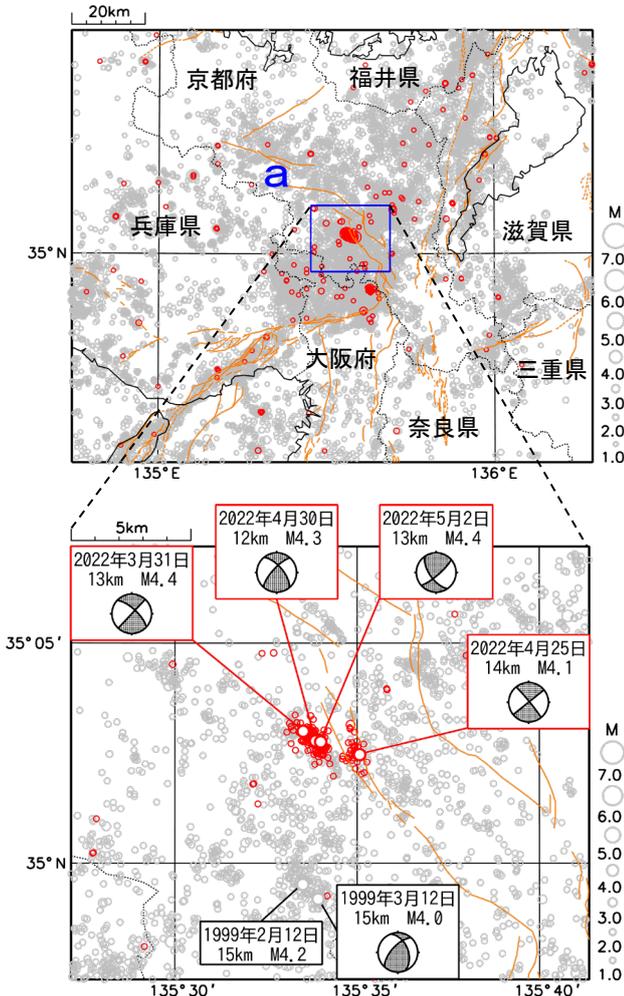
- ① 京都府南部では6月中に最大震度1以上を観測した地震が1回（震度2：1回）発生した。
- ② 6月17日に徳島県南部でM4.9の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

3月31日からの京都府南部の地震活動

震央分布図
(1997年10月1日～2022年6月30日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



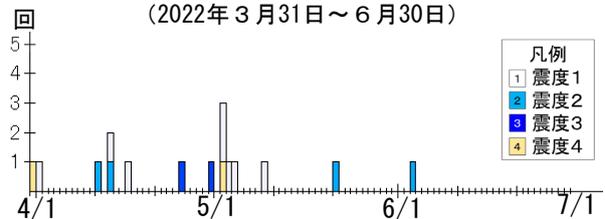
京都府南部では、2022年3月31日頃から地震活動が活発となり、6月30日までに震度1以上を観測する地震が16回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：4回、震度1：8回）発生している。この間、地震活動は消長を繰り返しながら継続してきているものの、6月中旬以降はそれ以前と比べると活動が落ち着いてきている。

3月31日から6月30日に発生した地震のうち、M4.0以上の地震は4回発生しており、最大規模の地震は、3月31日に深さ13kmで発生したM4.4の地震及び5月2日に深さ13kmで発生したM4.4の地震（ともに最大震度4）であった。これらの地震の発震機構は、東西方向もしくは西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

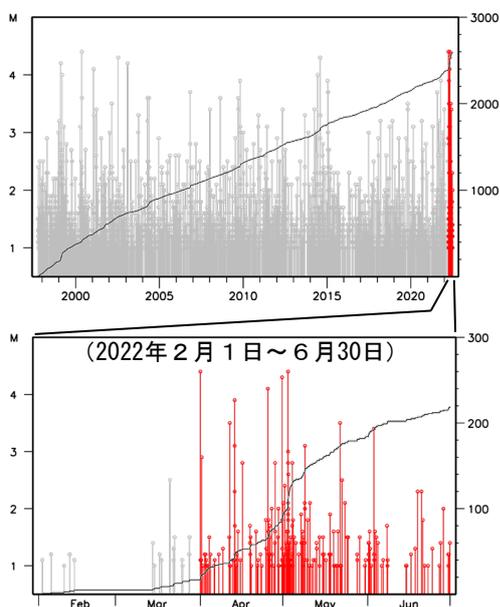
1997年10月以降の活動をみると、今回の活動域付近（領域a）では、M4.0程度の地震が時々発生している。このうち今回の活動のように、1ヶ月ほどの期間内にM4.0を超える地震が複数回発生するような活動は、今回の活動域のやや南側でも1999年2月から3月にかけて発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の活動域周辺（領域b）では、M5.0以上の地震も発生しており、2018年6月18日には大阪府北部の地震（M6.1）が発生し、死者6人、負傷者462人などの被害が発生した（2019年4月1日現在、総務省消防庁による）。

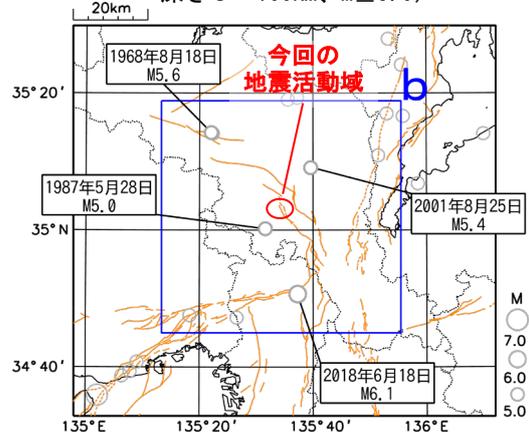
震度1以上の日別最大震度別地震回数図
(2022年3月31日～6月30日)



領域a内のM-T図及び回数積算図



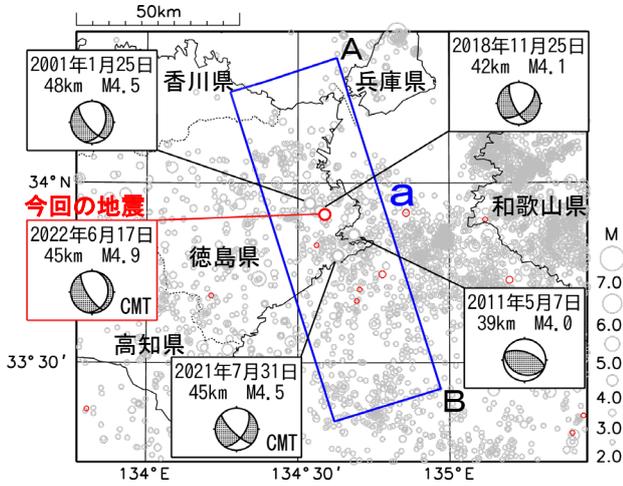
震央分布図
(1919年1月～2022年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



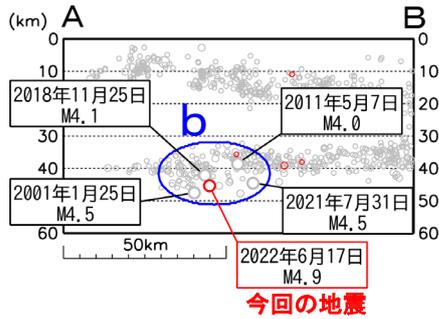
震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

6月17日 徳島県南部の地震

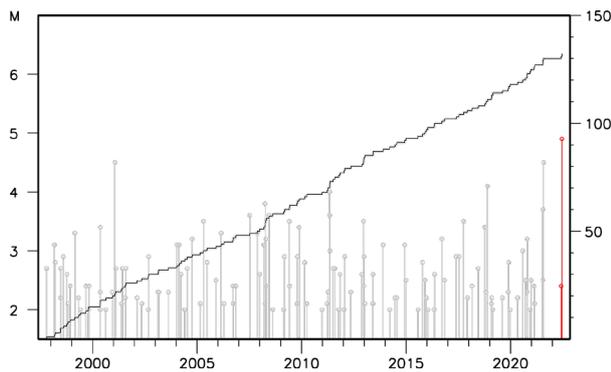
震央分布図
(1997年10月1日～2022年6月30日、
深さ0～60km、M≥2.0)
2022年6月の地震を赤色で表示



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



領域 b 内の M-T 図及び回数積算図

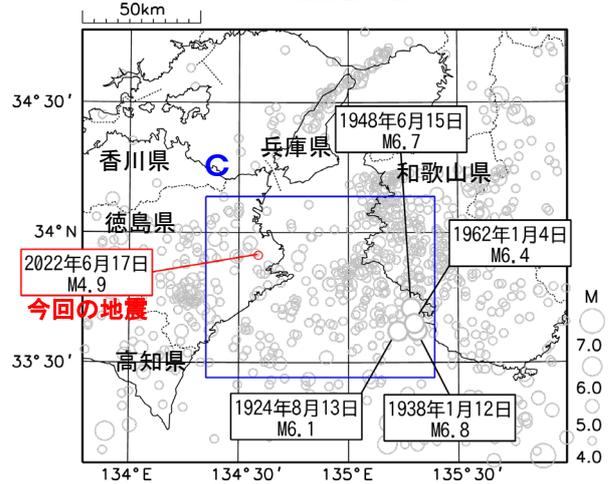


2022年6月17日00時51分に徳島県南部の深さ45kmでM4.9の地震(最大震度4)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源周辺(領域b)では、M4.0程度の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1970年頃にかけてM6.0程度の地震が時々発生している。このうち1948年6月15日にはM6.7の地震が発生し、死者2人、負傷者33人、家屋倒壊60棟などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図
(1919年1月1日～2022年6月30日、
深さ0～100km、M≥4.0)
2022年6月の地震を赤色で表示



領域 c 内の M-T 図

